



株主のみなさまへ

第20期中間期

平成19年12月1日～平成20年5月31日

玄品グループ
株式会社



海門閣

株式会社関門海 代表取締役会長兼社長グループCEO 谷間 真
株式会社カネジ 代表取締役社長COO 田中 正
株式会社関門海 専務取締役 玄品食門研究所所長 山元 正

■ まずはこの中間期の経営成績に関して、どのように見えていますか？

谷間

グループ全体の業績としては、売上高は当期から総菜宅配事業が通年寄与していることから前年比 26.7%増の 5,918 百万円、経常利益は研究開発型外食事業が好調に推移したことから、前年比 9.7%増の 664 百万円と増収増益を達成することができました。

研究開発型外食事業を取り巻く社会環境は、今年に入って食材価格が急激に高騰し、残念ながら予測どおりの社会環境の推移となってしまうというのが我々の感想です。関門海的主力事業である「玄品ふぐ」で使用するとらふぐも市場価格が大幅に高騰しており、おそらく同業他社では大きなダメージがあるものと思われます。関門海では、技術開発と食材調達に十分な備えを行ってきたため食材原価が安定し、営業利益 959 百万円（前年同期比 21.3%増）という好結果の基礎となっています。

山元

当中間期は、我々が研究開発型外食企業としてやってきた技術開発や食材調達が業績に与える結果をみなさんに分かりやすく表現できたと思います。今後も近い将来の食糧危機に備

えた新たな取組みを実行し、実現していきたいと考えています。

田中

総菜宅配事業の方は 71 百万円の営業損失を計上する結果となってしまいました。これは売上高を向上させるため、広告宣伝、人材採用等に積極的に投資を行いました。中国製ギョーザ中毒事件に代表される食の安全性を脅かす事件が逆風となり、新規顧客の獲得効率、既存顧客の継続率が悪化したことにより、売上高の増加が実現できず投資分の赤字が発生してしまいました。

下半期から来期にかけては、M&A によりグループ企業となったアクト・デリカとともに、V字回復が実現できるものと考えています。

■ M&Aを積極的に推進していますが、組織運営はどのように行っていくのですか？

谷間

平成 19 年 5 月、総菜宅配「おかずのカネジ」を株式会社カネジとして事業譲受して以来、M&A を円滑に効率的に融和的に行うための企業風土や組織文化を醸成してきました。M&A で最も大事なことは新しく仲間となったグループ企業をどれだけ歓迎し、対立・支配するのでは

なく、同じ目的を持ち、同じ方向で考えてもらうことができるかということだと思っています。当期は 6 月にとらふぐ養殖と水産物加工の株式会社富士水産、7 月に回転寿司「すし兵衛」の株式会社だいもん、総菜宅配「ラビットクック」の株式会社アクト・デリカを子会社化し、9 月には酒販店と飲食業の有限会社しまや酒店を子会社化する予定となっています。それぞれの事業責任者が責任感を持って事業を推進している理想に近い組織形態が形成されつつあります。

これまで、関門海とカネジの 2 社であったグループは 9 月には 6 社となるため、グループの総称を「玄品グループ」として、近い将来グループ経営に適したホールディング化も視野に入れております。

■ 経営体制に変更がありましたが、グループ全体の経営体制はどのようなのでしょうか？

谷間

代表取締役社長COOであった山形圭史から退任の申し出があったため、7月より私が社長を兼務し、代表取締役会長兼社長グループCEOに就任しました。山形は、新会社を設立し「玄品ふぐ」のフランチャイズ店舗の経営を行っ

ていくこととなったため、共に関門海の繁栄に協力していく仲間であることには変わりはありません。

今後は、グループ全体の統括は谷間が行い、研究開発型外食事業については、玄品ふぐ、関門海の新規開発業態、そして新たにすし兵衛のそれぞれに事業責任者を配置した上で、谷間が事業を統括し、総菜宅配事業は田中が、グループ全体の食材に関する技術開発、食材調達、商品開発などは山元が統括することとなります。

■ 下期以降のグループ全体の重点施策について教えてください。

谷間

まず、下期は、グループ全体としては積極的なM&Aを行ったため、人心の掌握とモチベーションの向上、事業構造の把握と改革、そしてグループ全体のシナジー効果の発揮を急速に進めていくこととなります。特に、アクト・デリカとカネジの統合に向けた業務は下期の最重要施策です。

既存事業については、研究開発型外食事業の主力業態である「玄品ふぐ」の出店を再加速していきます。9月に北海道地区1号店「すすき



のの関」を含めて2店舗の出店が決定しており、今期中にさらに3店舗の出店準備を進めております。とらふぐの価格が高騰している中、出店が継続できるのは我々の研究開発の成果とお考えください。

また、新規事業としては、イトマーケット「ちゃぶマイル」を7月にオープンいたしました。予想を上回る順調な滑り出しを示しています。今後の外食業界の動向、不動産価格の下落等を踏まえ、成長する可能性が高い新規事業と見えています。

田中

総菜宅配事業は、研究開発型外食事業と比較し限界利益率が高く、売上高が増えれば利益率が向上していき、逆に売上高が減少すると非常に利益が出にくい事業です。カネジの商品センター等のインフラは売上高 50 億円程度の事業規模であれば、高収益事業となることが分かっていたので、上期は、広告宣伝活動を積極的に行人員も増強して顧客増加を目論みましたが、投資は失敗に終わり売上高も向上させることはできませんでした。下半期は、上半期に失敗した売上高の増加施策についてはM&Aにより実現できたため、インフラの稼働率・効

率性の向上を徹底的に図り、高収益事業へと転換させていきます。

山元

食材に関しては、調達力の向上が継続したテーマとなっています。とらふぐに関しては、株式会社富士水産を子会社化したことで、自社養殖、飼料・種苗の開発を加速させていき、将来的には、「玄品ふぐ」で使用するとらふぐの一定割合を国産の自社養殖とらふぐに転換していくことを企図しています。自社養殖が進捗すれば、他の水産物の養殖も視野に入れてまいります。また、回転寿司「すし兵衛」を子会社化したことで漁港とのつながりを深めることにより、天然の水産物の調達も円滑に進むようになりました。

また、北海道での農業生産法人の設立準備にも携わり、まずはじゃがいも、アスパラガスなどの生産を開始しました。

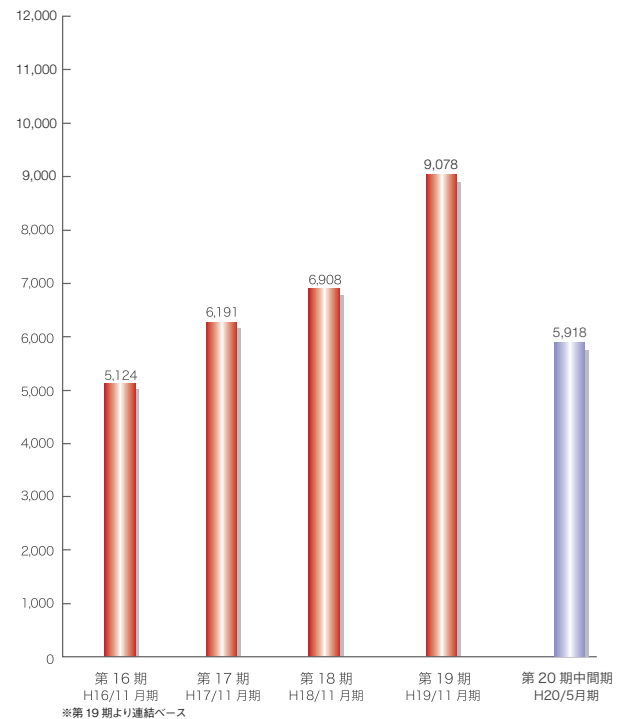
株主の皆様には、今後とも中長期的な観点から「玄品グループ」の取組に賛同いただき、成長と成果にご期待いただくとともに、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

当社グループの当中間連結会計期間における売上高は、総菜宅配「おかずのカネジ」の寄与により5,918百万円（前年同期比26.7%増）と大幅な増収となり、利益につきましても、営業利益694百万円（前年同期比6.7%増）、経常利益664百万円（前年同期比9.7%増）、中間純利益364百万円（前年同期比50.3%増）と増収増益となりました。

セグメント別では、「研究開発型外食事業」につきましては、「玄品ふぐ」は中間期末日現在では、直営店舗71店舗（前期末比7店舗減）、フランチャイズ店舗40店舗（前期末比7店舗増）の111店舗、新規開発業態では11店舗（前期末比1店舗増）、計122店舗を展開しております。その結果、売上高は、直営店舗のフランチャイズ化により4,158百万円（前期比0.0%増）と横ばいとなりましたが、営業利益については959百万円（前期比21.3%増）と好調に推移いたしました。「総菜宅配事業」につきましては、売上高の逓減が見られる中で積極的な広告宣伝、人材採用等の投資により顧客の拡大を志向しましたが、投資を回収するには至らず、売上高は前期の5月から総菜宅配事業の連結を開始したことから1,677百万円（前年同期比756.5%増）と大幅な増収となっておりますが、利益面につきましては、営業損失71百万円を計上いたしました。「その他の事業」は売上高83百万円（前年同期比73.7%減）、営業利益は26百万円（前年同期比49.3%減）となっております。通期業績につきましては、M&Aによる影響等も考慮し、売上高11,800百万円（前期比30.0%増）、営業利益500百万円（前期比27.6%増）、経常利益420百万円（前期比32.1%増）、当期純利益210百万円を見込んでおります。

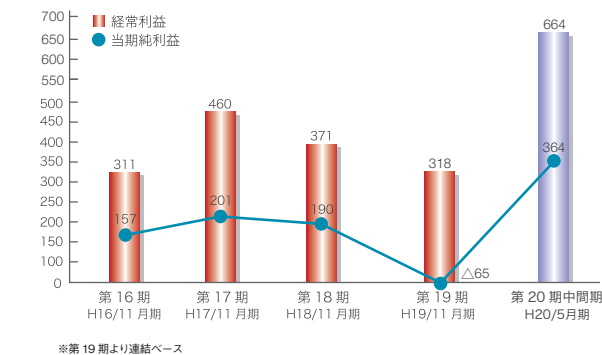
■ 売上高

（単位：百万円）



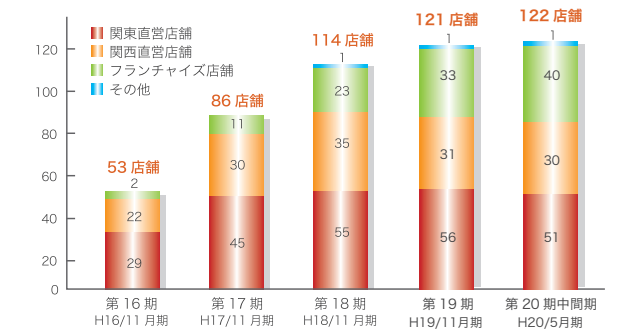
■ 経常利益・当期純利益

（単位：百万円）



■ 店舗数推移

（単位：店舗）



- **平成 20 年 7 月**
 - ・イートマーケット「ちゃぶマイル」オープン
 - ・回転寿司「すし兵衛」の株式会社だいもんを100%子会社化
 - ・山形圭史が代表取締役社長を辞任し、谷間真が代表取締役社長を兼務
 - ・総菜宅配「ラビットクック」の株式会社アクト・デリカを100%子会社化

- **平成 20 年 6 月**
 - ・とらふぐ養殖と水産物加工の株式会社富士水産を100%子会社化
 - ・「おかずのカネジ」奈良営業所開設
 - ・株式会社バイオ・サイト・キャピタルとライフサイエンス分野における情報交換等に関する資本業務提携

- **平成 20 年 5 月**
 - ・株式会社グローバル・ノエと北海道地方での共同事業開発に関する業務提携

- **平成 20 年 1 月**
 - ・「玄品以蟹茂」浜松町店をオープン
 - ・とらふぐ相場が急騰。「玄品ふぐ」は技術開発・在庫投資により堅調

- **平成 19 年 12 月**
 - ・筆頭株主が、財務大臣から株式会社ヤタガラスホールディングスに異動
 - ・「玄品ふぐ」のTV コマーシャル開始



■中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	当中間期 (H20.5.31 現在)	前中間期 (H19.5.31 現在)	前期 (H19.11.30 現在)		当中間期 (H20.5.31 現在)	前中間期 (H19.5.31 現在)	前期 (H19.11.30 現在)
資産の部				負債の部			
流動資産	3,695,384	2,778,823	3,818,222	流動負債	2,963,518	2,122,655	3,721,916
現金及び預金	1,049,518	768,636	947,044	買掛金	293,925	246,578	499,989
売掛金	393,342	279,713	484,510	短期借入金	300,000	300,000	1,100,000
たな卸資産	1,846,321	1,404,114	2,089,183	1年以内返済予定の長期借入金	1,188,328	745,673	1,218,129
その他	414,789	328,089	299,393	1年以内償還予定の社債	32,000	32,000	32,000
貸倒引当金	△ 8,587	△ 1,731	△ 1,908	未払金	470,686	427,129	709,058
固定資産	3,673,934	3,403,921	3,845,478	その他	678,578	371,274	162,739
有形固定資産	2,572,235	2,312,271	2,713,905	固定負債	2,547,363	2,302,337	2,486,255
建物及び構築物	1,784,275	1,638,679	1,856,755	社債	24,000	56,000	40,000
器具備品	319,624	341,852	364,833	長期借入金	2,228,762	2,187,087	2,382,726
その他	468,334	331,740	492,315	その他	294,601	59,250	63,529
無形固定資産	108,129	155,420	101,280	負債合計	5,510,881	4,424,992	6,208,172
投資その他の資産	993,569	936,229	1,030,293	純資産の部			
差入保証金	819,360	734,538	827,005	株主資本	1,855,942	1,757,752	1,455,529
その他	174,209	201,690	203,288	資本金	323,920	303,100	306,040
資産合計	7,369,318	6,182,744	7,663,701	資本剰余金	432,916	412,096	415,036
				利益剰余金	1,099,106	1,042,555	734,453
				評価・換算差額等	△ 1,125	-	-
				新株予約権	3,619	-	-
				純資産合計	1,858,437	1,757,752	1,455,529
				負債・純資産合計	7,369,318	6,182,744	7,663,701

Point ①

たな卸資産
1,846 百万円
(前期末比 242 百万円の減少)
在庫投資により、現在のとらふぐ相場急騰の中「玄品ふぐ」は収益性を維持しています。また、とらふぐ以外にも食材価格高騰の中、グループ全体の競争力を向上させる戦略的な在庫投資を推進しています。

Point ②

有形固定資産
2,572 百万円
(前期末比 141 百万円の減少)
新規出店を減速したことにより有形固定資産が減少となりました。今後、財務バランスを勘案しながら出店を行い、投資・拡大先行からの脱皮を図ってまいります。

Point ③

有利子負債
3,773 百万円
(前期末比 999 百万円の減少)
当中間期は、「玄品ふぐ」の繁忙期での利益、減価償却費などから資金を捻出し、999 百万円の有利子負債を圧縮し、財務体質の健全化に努めました。

■中間連結損益計算書

(単位：千円)

	当中間期 (H19.12.1～ H20.5.31)	前中間期 (H18.12.1～ H19.5.31)	前期 (H18.12.1～ H19.11.30)
売上高	5,918,858	4,669,905	9,078,665
売上原価	2,018,721	1,455,924	3,147,124
売上総利益	3,900,136	3,213,981	5,931,540
販売費及び一般管理費	3,205,857	2,563,388	5,539,182
営業利益	694,279	650,592	392,358
営業外収益	16,302	7,925	16,327
営業外費用	45,784	52,549	90,256
経常利益	664,798	605,968	318,429
特別利益	85,979	-	156
特別損失	89,688	198,465	384,730
税金等調整前中間純利益又は当期純損失	661,088	407,503	△ 66,144
法人税等調整額	296,435	164,836	△ 709
中間純利益又は当期純損失	364,653	242,666	△ 65,435

■中間連結株主資本等変動計算書 (H19.12.1～H20.5.31)

(単位：千円)

	株主資本				評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額 等合計		
前期末残高	306,040	415,036	734,453	1,455,529	-	-	-	1,455,529
中間連結会計期間中の変動額								
新株の発行	17,880	17,880		35,760				35,760
中間純利益			364,653	364,653				364,653
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額（純額）					△ 1,125	△ 1,125	3,619	2,494
中間連結会計期間中の変動額合計	17,880	17,880	364,653	400,413	△ 1,125	△ 1,125	3,619	402,907
当中間連結会計期間末残高	323,920	432,916	1,099,106	1,855,943	△ 1,125	△ 1,125	3,619	1,858,437

Point ①

営業活動によるキャッシュ・フロー
1,229 百万円 (前年同期比 251 百万円の増加)
税金等調整前当期純利益 661 百万円、サッポロビールとの業務提携に関連する長期前受収益の増加 206 百万円などの増加要因があった中で、戦略的な在庫投資を推進したことにより、前中間期と比較したたな卸資産の減少額が 146 百万円減少した結果です。

Point ②

投資活動によるキャッシュ・フロー
△ 162 百万円 (前年同期は△ 697 百万円)
当中間期は、新規出店の減速によって 162 百万円の投資に留まりました。下半期の投資活動はM&A、新規出店などにより活性化いたします。

Point ③

財務活動によるキャッシュ・フロー
△ 964 百万円 (前年同期は△ 46 百万円)
当中間期は営業活動で獲得したキャッシュ・フローを投資に使用しなかったため、借入金を返済いたしました。下半期は、投資活動が活性化することから、金融機関を中心とした資金調達を行います。

■中間貸借対照表

(単位：千円)

	当中間期 (H20.5.31 現在)	前中間期 (H19.5.31 現在)	前期 (H19.11.30 現在)		当中間期 (H20.5.31 現在)	前中間期 (H19.5.31 現在)	前期 (H19.11.30 現在)
資産の部				負債の部			
流動資産	3,073,448	2,619,864	3,567,382	流動負債	2,397,503	1,801,659	3,340,512
現金及び預金	775,500	622,449	622,086	買掛金	86,838	123,680	327,653
売掛金	132,557	187,571	307,377	短期借入金	300,000	300,000	1,100,000
たな卸資産	1,794,905	1,365,983	2,050,257	1年以内返済予定の長期借入金	1,128,328	745,673	1,218,129
関係会社貸付金	-	300,000	300,000	1年以内償還予定の社債	32,000	32,000	32,000
その他	370,484	143,860	287,661	未払金	281,179	240,339	551,865
固定資産	3,480,220	3,237,086	3,677,813	その他	569,157	359,966	110,864
有形固定資産	2,414,860	2,167,554	2,563,799	固定負債	2,283,394	2,302,337	2,476,976
建物	1,684,625	1,560,414	1,766,246	社債	24,000	56,000	40,000
器具備品	297,705	336,577	339,042	長期借入金	1,993,762	2,187,087	2,382,726
土地	349,032	142,321	349,032	その他	265,632	59,250	54,250
その他	83,498	128,241	109,477	負債合計	4,680,897	4,103,996	5,817,488
無形固定資産	65,215	87,583	75,784	純資産の部			
投資その他の資産	1,000,143	981,948	1,038,229	株主資本	1,870,277	1,752,954	1,427,708
差入保証金	779,925	731,094	788,620	資本金	323,920	303,100	306,040
その他の他	220,217	250,854	249,609	資本剰余金	432,916	412,096	415,036
資産合計	6,553,668	5,856,951	7,245,196	利益剰余金	1,113,440	1,037,757	706,631
				評価・換算差額等	△ 1,125	-	-
				新株予約権	3,619	-	-
				純資産合計	1,872,771	1,752,954	1,427,708
				負債・純資産合計	6,553,668	5,856,951	7,245,196

■中間損益計算書

(単位：千円)

	当中間期 (H19.12.1～ H20.5.31)	前中間期 (H18.12.1～ H19.5.31)	前期 (H18.12.1～ H19.11.30)
売上高	4,312,146	4,505,260	7,250,199
売上原価	1,193,560	1,377,269	2,183,640
売上総利益	3,118,586	3,127,990	5,066,558
販売費及び一般管理費	2,388,818	2,486,913	4,759,760
営業利益	729,768	641,077	306,798
営業外収益	60,424	8,384	45,635
営業外費用	56,341	51,984	95,781
経常利益	733,852	597,477	256,652
特別利益	85,979	-	-
特別損失	89,291	198,465	370,932
税金等調整前中間純利益	730,539	399,011	△ 114,280
法人税等調整額	323,730	161,142	△ 21,023
中間純利益又は当期純損失	406,808	237,869	△ 93,257

■中間株主資本等変動計算書 (H19.12.1～H20.5.31)

(単位：千円)

	株主資本				評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計		
前期末残高	306,040	415,036	706,631	1,427,708				1,427,708
中間会計期間中の変動額								
新株の発行	17,880	17,880		35,760				35,760
中間純利益			406,808	406,808				406,808
株主資本以外の項目の中間 会計期間中の変動額（純額）					△ 1,125	△ 1,125	3,619	2,494
中間会計期間中の変動額合計	17,880	17,880	406,808	442,568	△ 1,125	△ 1,125	3,619	445,062
当中間会計期間末残高（千円）	323,920	432,916	1,113,440	1,870,277	△ 1,125	△ 1,125	3,619	1,872,771

とらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」は、とらふぐ相場が急騰している中、技術開発と在庫投資により、高い収益性を維持しております。また、中澤裕子さんを起用したTVコマーシャルは特に関西では高い認知度を誇っており、今冬、関東でも積極的な広告宣伝投資を行い「玄品ふぐ」の認知度を高めていく考えです。新規出店については、人員・組織体制に乱れがあり減速させていましたが、今秋9月の北海道札幌市において「玄品ふぐ すすきの関」のオープンを皮切りに出店を再開します。



イートマーケット ちゃぶマイル

北海道に沖縄料理、バルあり粉もんありメキシカンに宮崎＆海鮮居酒屋、シャンパンバーに焼酎バーもいけてます。日常に美味い！が待ってます！



大阪市西区本社1Fにイートマーケット「ちゃぶマイル」が7月1日にオープンしました。毎日多数のお客様にご来店いただいています。「ちゃぶマイル」とはちゃぶ台のまわりに笑顔（スマイル）で集まる家族のように日常の笑顔で溢れる親しみある施設になるようにネーミングしました。ちゃぶマイルには、個人の独立店舗が6店舗、業務提携しているバルニバービ、グローバル・ノエ、そして関門海が1店舗ずつ出店し、計9店舗で構成されています。

当社としては、個性ある飲食業で独立を志向する人に、個人ではなれない集客力、調達力、プレゼンテーション力、マネジメント力等による成功可能性の高い独立手段を提案することで、社会に内在する才能を発掘できる施設として「ちゃぶマイル」を捉え、展開可能性について模索していく方針です。

収益モデルは、当社が初期投資を負担し、出店者は売上高に見合った店舗施設利用料を支払います。今後、価値下落が見込まれる不動産市場において飲食店舗による不動産の収益性を高める再生手法としての可能性についても検討していく考えです。



回転寿司「すし兵衛」の株式会社だいもん



当社グループは再編・淘汰が続く外食業界において、食材に関連する技術開発力・食材調達力・店舗開発力等を活かし、サッポロビールとの資本業務提携を実施するなど外食企業の業務提携やM&Aを推進することで企業価値の向上を実現することを目指しております。回転寿司「すし兵衛」は、当社グループが実施するはじめての外食のM&Aですが、当社の食材調達力、技術開発力により収益性向上を図ることが可能なこと、回転寿司チェーンをグループ内に持つことで水産物に関する技術力・調達力のさらなる向上を実現することができること、「すし兵衛」の11軒の店舗が神奈川県内に集中しており、マネジメントが比較的行いやすいこと、マネジメントに必要な人材が獲得できたことなどから、今回M&Aすることを決定しました。



とらふぐ養殖と水産物加工の株式会社富士水産



富士水産のある対馬は、海流・水質などに恵まれ水産資源が豊富で、さらに海岸線はリアス式海岸なので養殖にも非常に適した漁場です。今後、当社グループの主力業態である「玄品ふぐ」で使用するとらふぐの重要な生産拠点に育成していくことを目指し、自社養殖を開始しています。また、対馬は天然物の水産物も豊かで、特に富士水産で製造される「てっぺんあじの干物」は絶品です。このような水産加工品は新規業態開発を行うに際しても大きな競争力となることから、イートマーケット「ちゃぶマイル」でも、関門海直営店として、対馬の水産物を中心に提供する海鮮料理店「玄海対馬 津々浦々」をオープンしています。



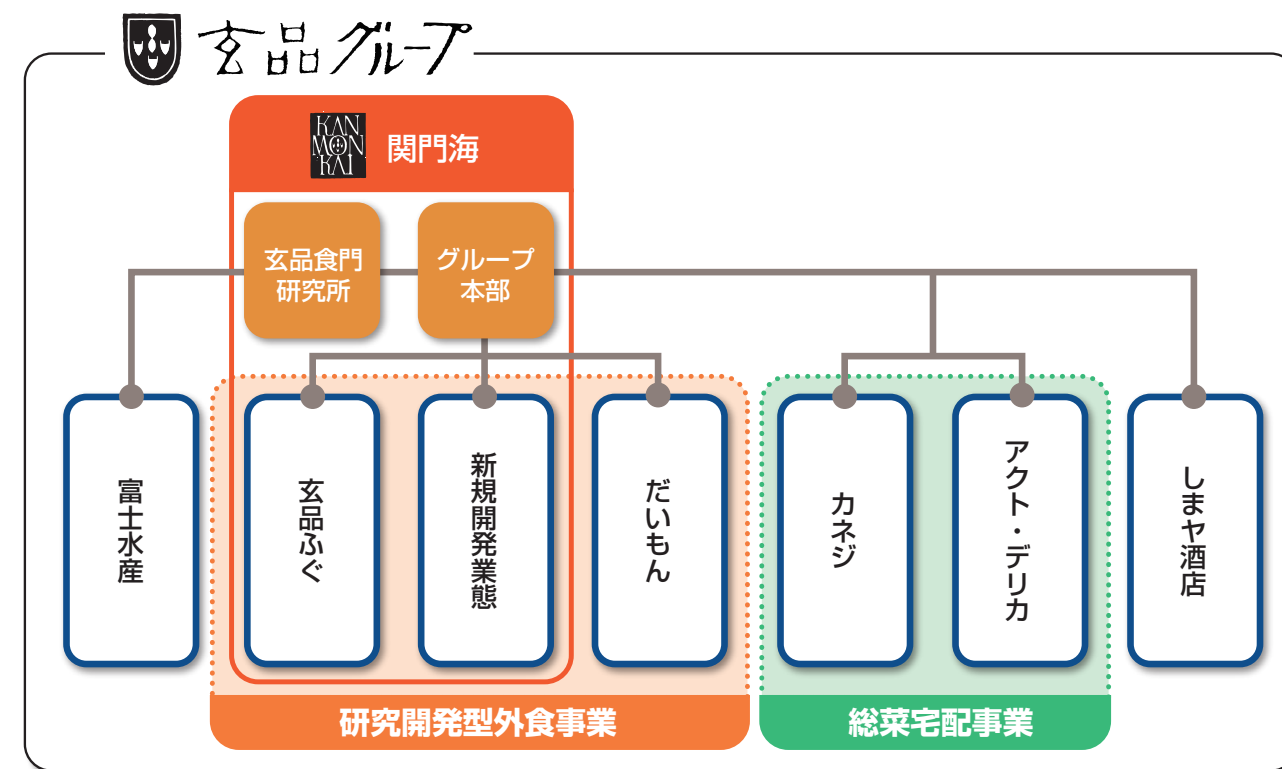
総菜宅配「ラビットクック」の 株式会社アクト・デリカ



当社グループは、平成 19 年 5 月に「おかずのカネジ」の事業を譲受け、総菜宅配事業を開始いたしました。総菜宅配事業は、事業の特性上、収益性を高めるためには事業規模が重要であると考え、1 年が経過する中で積極的な投資を行い新規顧客の獲得活動を行ってまいりました。結果、直近では緩やかな業績回復傾向が見られるものの、中国製ギョーザ中毒事件に代表される食の安全に関する事件による消費者意識の変化により新規顧客の獲得効率が大幅に低下したことや積極的な営業活動が逆に顧客の満足度を低下させた部分もあり、大幅に顧客が減少したことで業績が悪化しておりました。また、総菜宅配事業の顧客を増加させていくことは非常に時間を要するという理解にも至っており、当社グループとしては、同じ総菜宅配業者の M & A を模索しておりました。このような中で、関西地区で有力な事業基盤を有している「ラビットクック」の アクトデリカの M & A は、関西地区の総菜宅配業界においてトップシェアを持つこととなり、スケールメリットによる利益向上を期待できる M & A です。来期以降の業績を期待いただければと思います。



関門海は「玄品グループ」として、とらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」の展開だけに留まらず、「食」を通じて社会に貢献する企業となるため、幅広い新規事業開発・M & A を推進しております。



- 株式会社カネジ ・一般家庭向け総菜宅配事業
- 株式会社だいもん ・回転寿司「すし兵衛」の経営
- 株式会社富士水産 ・とらふぐ養殖
・水産物加工

- 株式会社アクト・デリカ ・一般家庭向け総菜宅配事業
- 有限会社しまや酒店 ・泡盛を中心とした酒販店
・沖縄料理店の経営

平成20年5月31日現在

株式の状況

発行可能株式総数 200,000株

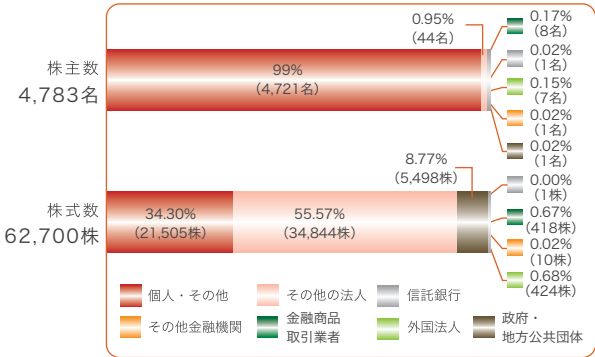
発行済株式の総数 62,700株

中間期末株主数 4,783名

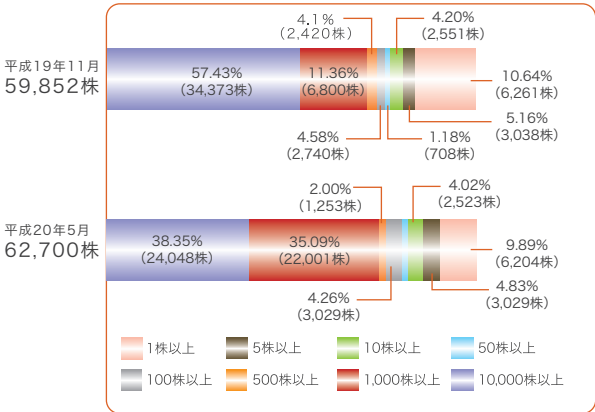
大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数	議決権比率
株式会社ヤタガラスホールディングス	24,048	38.35%
有 限 会 社 サ ン ミ ー ト	5,500	8.77%
財 務 大 臣	5,498	8.76%
サ ッ ポ ロ ビ ー ル 株 式 会 社	5,102	8.13%
山 形 圭 史	2,260	3.60%
岡 本 洋 一	1,920	3.06%
吉 崎 晃 敏	1,721	2.74%
谷 間 真	904	1.44%
関 門 海 福 株 会	753	1.20%
浅 野 省 三	400	0.63%
八 藤 眞	400	0.63%

所有者別株式分布状況



所有株式数別分布状況



株主優待制度

■株主優待制度概要

- ・1株以上3株未満 優待券×1枚 (3,900円相当)
- ・3株以上5株未満 優待券×2枚 (7,800円相当)
- ・5株以上 優待券×3枚 (11,700円相当)

■対象となる株主様

毎年5月31日、11月30日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載された株主様

■優待内容

- ・とらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」 ① 秘玄匠味セット1人前ご優待
- ・かに料理専門店「玄品以蟹茂」 ② スワイ蟹鍋と炭火焼2人前ご優待
- ・スペインバル「バルデゲー」 ③ 3,900円相当の割引
- ・カジュアルフレンチレストラン「ARIA. C (アリアッチ)」 ④ 3,900円相当の割引
- ・中華料理「爆香房 (ばっかぼう)」 ⑤ 3,900円相当の割引
- ・とらふぐ料亭「ふぐ玄銀 (くろかね)」 ⑥ 3,900円相当の割引
- ・すし料理「鮎也玄 (すしやげん)」 ⑦ 3,900円相当の割引
- ・おかずのカネジ ⑧ 3,900円相当の割引
- ・富士水産 ⑨ 宅配カネジの5食セットと引き換え
- ・お取り寄せ玄品ふぐ ⑩ 対馬からの贈り物と引き換え
- ・ひれ酒セット ⑪ 3,900円相当の割引
- ⑫ 関門海オリジナルひれ酒セットと引き換え

■「株主優待券」のご送付時期

- ・5月31日現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載された株主様に対しましては、8月中旬頃の発送となります。
- ・11月30日現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載された株主様に対しましては、2月下旬頃の発送となります。

配当実施のお知らせ

当社グループは、設立以来、新規出店、技術開発、人材育成への投資及び内部留保を優先させてきたため配当は実施していませんでした。今後も引き続き、新規出店、技術開発、M&A等に関わる投資により成長を持続させ、企業価値を高めてまいり所存ですが、同時に当社株式を長期保有していただいております株主の皆様への利益還元として、業績に応じて、積極的に配当を実施していくことを基本方針といたします。

■株主優待の内容

当中間連結会計期間における配当は、平成20年1月15日に公表のとおり、1株につき1,000円を実施いたします。期末配当につきましては1,000円を予定しており、年間配当は2,000円となります。

なお、配当金額につきましては、現段階での予想となっており、変更する可能性もございます。

	中間配当金	期末配当 (予定)	年間配当 (予定)
配当金額	1,000円	1,000円	2,000円



株主メモ

決 算 期	毎年11月30日
基 準 日	毎年11月30日
中間配当基準日	毎年5月31日
株式の売買単位	1株
公 告 掲 載 方 法	電子公告による。 (http://www.kanmonkai.co.jp) 但し、電子公告を行えない場合は、 日本経済新聞に掲載する。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市北区堂島浜1丁目1番5号 三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 ＴＥＬ：０１２０－６８４－４７９
同 取 次 所	三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社全国本支店 野村證券株式会社 全国本支店

会社概要

■株式会社 関門海	KANMONKAI Co., Ltd.
創 業	昭和55年9月 創業者山口聖二がとらふぐ料理専門店「ふぐ半」 (現「玄品ふぐ藤井寺の関」)を開店
設 立	平成元年5月
所 在 地	【本社所在地】 〒550-0014 大阪市西区北堀江二丁目3番3号 ＴＥＬ：06-6578-0029 e-mail：ir@kanmonkai.co.jp URL：http://www.kanmonkai.co.jp 【玄品食門研究所】 〒580-0041 大阪府松原市三宅東一丁目8番7号 【東京本部】 〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目8番10号 MA芝浦ビル2F
資 本 金	3億2,392万円(平成20年5月31日現在)
役 員	代表取締役会長ＣＥＯ兼社長ＣＯＯ 谷間 真 専 務 取 締 役 山元 正 取 締 役 田中 正 取 締 役 大村美智也 取 締 役 本多 正嗣 取 締 役 岩本 昌志 取 締 役 原 真理 社 外 取 締 役 川合アユム 監 査 役 山口 静広 社 外 監 査 役 浅野 省三 社 外 監 査 役 玉置 和則 (直近日現在)
従業員数	213名(平成20年5月31日現在)
事業内容	・「美味で健康的な本物のおいしさ」を追求する食材関 連技術の開発 ・とらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」の直営及びフランチャ イズによる店舗展開 ・食材関連技術を活用した新規開発業態による店舗展開